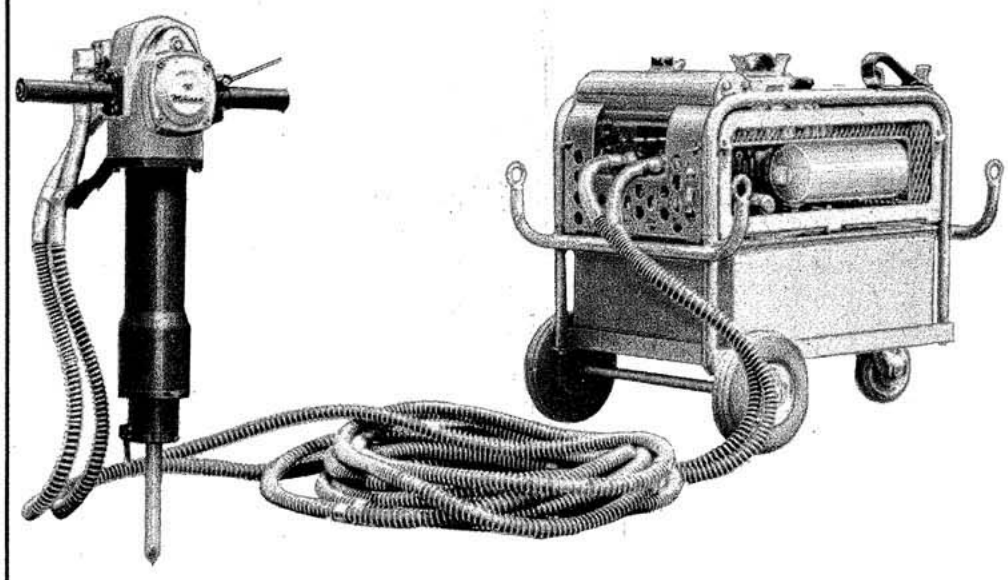
三笠産業ニュース

発行所
東京都千代田区猿楽町 1-4-3
三笠産業株式會社
電話 東京03(292)1411 大代表
テレツクス 222～4607
郵便番号 101番
PR旬報　年4回発行

MOB－32型油圧式 コンクリートブレーカー

軽量化成る!!



先に発表しました油圧駆動に依るコンクリートブレーカーは、最近、大型建設機械（ショベル・クレーン・オーガー等）の油圧源からオイルを引いて重機用アタチメント器具として利用して頂くようになりましたが、ブレーカーとして単独でお使いになる場合、従来のものでは重量がやや大きく操作上、少しお扱いずらい点がありましたので、その後ヘッドのハンマー部を改良した結果、重量がグット軽くなり同時に打力も又、一段と強くなりました。以下それについてご説明することに致します。

ブレーカーヘット　括弧内は改良前の寸法です。

高さ六八五粍（七五〇）　横巾　二七〇粍（二四五）
正面巾　五〇〇粍
打撃数　九〇〇～一、一〇〇 Blow/m.n
打力　CB25（CB20）
圧力　四〇～六〇kg/cm²
オイル吐出量三五～三八（二八～三〇）ℓ/min
重量　三二（三六）kg
オイルモーター 19ℓ/1,000r.p.m（12.7ℓ/1,000r.p.m）

パワーユニット

エンジン、外観、寸法に変更ありません。

オイルポンプのみ変っています 19ℓ/1,000r.p.m（12.7ℓ/1,000r.p.m）

重量を軽くするため、主として、ブレーカーヘッドを改良したわけです。仕様にも示してある通り、先ず重量がいままで36kgと人間が操作するには少し困難であったものを32kgと軽くいたしました。

打撃方式をスプリング式からエヤダンパー式に変えました。

打撃メカニズムに於いて従来のものは、ブレーカチゼルをハンマーで打った時の反撥をスプリングに於いて吸収し、且つ打撃時の加速もスプリングによって行なって来ました。これは当社がランマーにおいてスプリングクッションを研究しその技術を応用したからです。ところがこれでは打撃力を上げることによりスプリングを大きくしなければならないので、これが全体のウエイトに影響していたわけです。そこで今度はハンマーとピストンの間に空気を入れ衝撃吸収を空気で行なうようエヤダンパー式に変えましたので、これによってハンマーストロークも大きくなり、ハンマースピードも上って打力を強めると共に打った時の反動を極めて小さくすることが出来、それによって本機使用中の安定性を増すことになりました。

更に、オイルモーターやオイルポンプの容量を上げましたので、これに依って回転が円滑になり充分な機能が発揮出来ます。

今度のものはハンマーの速度がスプリング式にくらべて大きくなっていますからグリース潤滑では不充分なきらいがありますので、オイルに依る潤滑を採用いたしました。これは本機シリンダーの下部に注油口があり、ここからディーゼルエンジンオイル（HD#三十）を入れて使用して戴くようになっています。予めご使用前にオイルが口元まで入っているかどうかを点検して戴くことが大切です。

従来のものは機体のふれがやや大きかったためハンドルはスプリングを介してとりつけておりましたが、今度のものは本体のふれが小さくなりましたので、ハンドルを機体に固定させ手にくる打撃振動はスポンジゴムをつけて吸収するようにいたしました。

いままではチゼルの下からネジキャップをはめて本体からチゼルが脱落しないよう押えておりましたので、取り外しが少々面倒でしたが今度はレバーを上下するだけでチゼルが落ちないようにロック部分が出入りしてチゼルをはめこむ操作が簡単になりました。レバーを下げておいてチゼルを挿入しレバーを上るだけでロック出来ます。また将来製作予定のタンパー、平のみ等の工具も取付可能になりました。以上がブレーカーヘッドの主なる改良点であります。さらにつけ加えればオイルホースをハンドルより下の位置でクランプし多少でも機体をもったままでオイルホースを引っぱりやすくいたしました。

今度の軽量化により一段と操作しやすく作業を能率よく向上させることが出来るものと確信しております。

東部地区 14回 三笠代理店会 開催

三月二十六日～二十七日
伊東よねわか荘に於て

五月二十六日午前十一時を期して、第十四回、東部地区三笠代理店会が、東京駅に向われ、十三時八分発「伊豆三号」にて、伊東へと運ばれた。

我々一行の憩いの宿である伊東温泉のよねわか荘は浪曲で名を知られた、寿々木米若丈が経営している旅館で、熱海の大観荘、伊豆長岡の三養荘と並んで風光明媚な広大な庭園に恵まれ全館離れのお数寄屋造りで、広々とした芝生の苑に一戸建ての離れから立ちのぼる湯けむり、あるいは、泉石池水の配などまことに妙を得て、京風の柔かみと関東の明るさを味わうことができる実に素晴らしい旅荘であった。

よねわか荘に着かれたご一行は旅装もとかずに、そのまま会議室に於いて三笠代理店会懇談会が星野次長司会の下に開会された。

先ず京谷社長の挨拶ではじまり次いで営業部長の京谷専務が販売部門に対して、また技術部長の吉田常務が技術部門に対し、更に小林、長谷川両工場長が生産部門に対しそれぞれ活発な質疑応答が行なわれた。

やはり論議はダブルバイブレーションローラー、バイルハンマーと改良型のコンクリートブレーカーについて熱心な質疑が行なわれ、最後に鉄建工機（長岡）の小師社長より今後新製品及改良型が発表され次第是非共講習会を開いてほしいという、ご提案があり、早速本年度より実施する事に決定、吉田常務の新製品に対する図面による解説があって、終始友好裡にこの会議を終了した。

（三笠代理店会のご一行をお待ちする三笠小間）

しかしその雨も三十分ほどで上って呉れたので、予定通り新製品のMDR＝11型ダブルバイブレーションローラーを始めMVC＝100型バイブロコンパクター、MOH＝80型バイルハンマー及び前年度新製品の油圧式コンクリートブレーカーヘッドの改良型を実演してお目にかけることの出来たのは幸いであった。

特にダブルバイブレーションローラーには代理店の方々も殊の外興味を持たれ、ご自身でハンドルを握られてその性能を試しておられる方も見受けられた。

やがてご一行は十二時二十分会場発の貸切バスで東京駅に向われ、十三時八分発「伊豆三号」にて、伊東へと運ばれた。

我々一行の憩いの宿である伊東温泉のよねわか荘は浪曲で名を知られた、寿々木米若丈が経営している旅館で、熱海の大観荘、伊豆長岡の三養荘と並んで風光明媚な広大な庭園に恵まれ全館離れのお数寄屋造りで、広々とした芝生の苑に一戸建ての離れから立ちのぼる湯けむり、あるいは、泉石池水の配などまことに妙を得て、京風の柔かみと関東の明るさを味わうことができる実に素晴らしい旅荘であった。

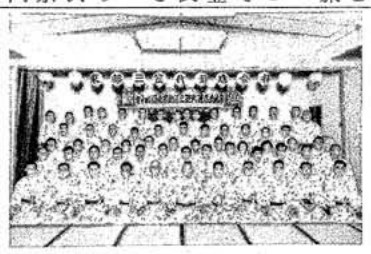
よねわか荘に着かれたご一行は旅装もとかずに、そのまま会議室に於いて三笠代理店会懇談会が星野次長司会の下に開会された。

先ず京谷社長の挨拶ではじまり次いで営業部長の京谷専務が販売部門に対して、また技術部長の吉田常務が技術部門に対し、更に小林、長谷川両工場長が生産部門に対しそれぞれ活発な質疑応答が行なわれた。

やはり論議はダブルバイブレーションローラー、バイルハンマーと改良型のコンクリートブレーカーについて熱心な質疑が行なわれ、最後に鉄建工機（長岡）の小師社長より今後新製品及改良型が発表され次第是非共講習会を開いてほしいという、ご提案があり、早速本年度より実施する事に決定、吉田常務の新製品に対する図面による解説があって、終始友好裡にこの会議を終了した。

（懇親会に於ける京谷社長の挨拶）

それから一風呂あびて、気持のほぐれたところで、六時三十分より第二部の懇談会が京谷社長の挨拶に次いで、出席代理店を代表して親和機械工業（仙台）の安藤常務よりご鄭重なる謝辞をたまわり、また報道部関係を代表して日刊建設産業新聞社の花村副社長より祝辞が述べられ次いでコスモ貿易の興社長の音頭により一同乾杯して懇談会の幕を開けた。


（よねわか荘に於ける記念撮影）

ほどなく美妓連のサービスに座はくだけ杯を重ねるにつれてお互いに顔なじみの方の多いせいか急ピッチに酔が廻ってメーカーとデーラーとの心がしっかりと結び合い、お互いの発展を約し合い、契い合いしてやがてお国自慢ののどを聞かせながら夏の夜の更けるのもわすれて楽しい一夜を過ごした。

（朝の庭園を散策する代理店会の人々）

翌朝は、早目に起きられて、美しい新緑の庭園をそぞろ歩きして朝の伊豆気分を満喫され、朝食の時に米若さんのお弟子さんが浪曲「佐渡おけさを」一席語って、よねわか荘を一層印象的なものにして呉れたのも今日の思い出として残ることでしょう。

—鈴木報—

三笠親和会 春季旅行

六月十一日～十四日
（大阪、京都、下呂、犬山）

万国博を訪ねて

一九七〇年三月十五日、日本万国博が六ヵ月にわたる開期の幕を切って落した。

参加国、規模共に史上最大というこの世紀の催しを我が三笠親和会も訪ねる事となった。

コースは第一日目万国博見物、京都一泊、二日目、京都市内見物、下呂温泉泊り、三日目最終日、木曾川日本ライン下り、帰社、

今回は、親和会始まって以来初のケースとして、春秋二回の旅行を一回にまとめ、期間を六月十一日（木）から十四日（日）までの三泊四日とした。

二台のバスに分乗した一同は、本社前を十一日午後十一時出発、雨の東名高速道路を一路西へと向い途中数回の小休止の後、栗東インターチェンヂを出て、びわ湖畔堅田ビワコタワーに着き、小原庄助さんに負けずに朝風呂を楽しみ、朝食後、万国博会場へと雨空をうかがいながら直行した。

万国博会場では、我々を歓迎するかの様に雨もやみ午前九時の開門と同時に入場した。

（万国博会場風景）

会場内は、今回のテーマ「人類の進歩と調和」を高らかに歌い上げるが如く、数々の目をみはる近代的な建築物や、各国のパビリオンが空高くそびえたち、それを見おろす様にお祭り広場の大屋根の上から太陽の塔がのぞいていた。

会員達は、思い思いに目指す各国のパビリオンへと足を運び、中にはユニホームをつけた女性ガイドや各国のパビリオン内のガイドと並んで記念写真を撮るもの、各国の料理を味わうもの、万博の乗物を楽しむもの等各自世紀の万国博を心ゆくまでたのしんだ。

各国の展示館内の催しものはすでにマスコミ等で詳しく報道されているので、言うまでもないが、コンピューターやレーザー光線と時代の先端を行くものを取り入れたすばらしいものばかりである。

（万国博会場風景）

現在我々の日常生活において使用されている数々の文明の利器も、かつては外国における万国博の会場をかざり、人々から驚異の目で見られたものだという。やがては今日この万国博会場をかざった数々のものが実用化され、我々の日常生活をより豊かなものにしてくれるだろう。

そんな未来の夢をえがきながら、午後五時万国博会場をあとに、宿泊地京都に向う。

翌日は、八時三十分宿舎を出発京都市内を車窓から眺めて、金閣寺、平安神宮、清水寺等を見物した。

若い人たちの多くは学生時代に修学旅行でこの地を訪れており、何年ぶりかの再来にみなつかしそうであった。当時の思い出を語り合いながら、あのせまい清水坂をのぼった。

又、京都は国際観光都市にふさわしく、どこでも多くの外人客が見られた。仲間の中には、それらの外人を呼びとめて、一しょに記念写真をとるもの、外人に肩をだかれて、てれる女性等あり、正に国際色豊かである。

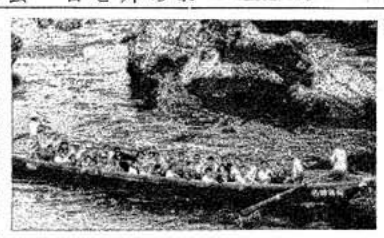
京都市内の見物を終った一同は再び名神高速道路をへて、山あいの道を飛騨川にそって走り、午後四時今宵の宿である下呂温泉の水明館に到着した。

夜は大広間において宴会が行なわれたがいつもの様に宴はにぎやかに進み、途中飛騨地方の民芸である飛騨太鼓を楽しみ宴を閉じた。

（京都金閣寺にて）

翌朝は七時三十分早い朝食の後、木曾川の日本ラインに向け二艘の舟に分乗して川を下った。両岸には巨岩、奇岩がならび、その間に岩つつじが咲き、都会生活の我々には久しぶりに見る風景である。しぶきをあび、岩の上の釣人に声をかけ、それぞれ勝手な事を言いながら一時間余の舟旅を楽しみ犬山に到着、お城を背景に記念写真をとり犬山をあとに帰途についた。

—菅野記—


（木曾川日本ライン下り）

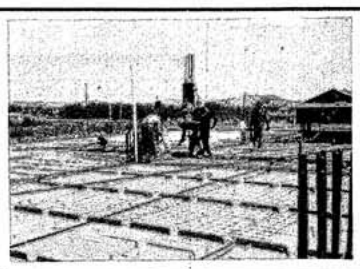
（犬山城を背景に記念撮影）

南アフリカ共和国の出張を終えて

南ア、モザンビーク、ナイロビィー、カラチの各代理店を訪問し、現地に於ける三笠製品の評価及び今後の販売促進に対する諸問題を打ち合せると同時に、他社製品の進出情況並びに、各国の建設工事状況を調査するため、二十四日間の予定を以て去る三月二十七日羽田空港を出発、途中マニラ、バンコック、ボンベイに寄港カラチナイロビィーで乗換え、一路ヨハネスブルグに向う。

バンコックまでは機内に日本人を多く見掛けたが、パキスタンを過ぎると全然といってよい程日本人の姿を見ることは出来なかった。パキスタンからナイロビィーまで殆んどインド人、パキスタン人で占められていたが、ナイロビィーからは逆に白人の乗客で占められてしまった。そしてまず白人が前部の席に乗り次に日本人、有色人種、黒人といった順序で坐っているのを見た時はいささか驚いた。何故機内に於ける席までも差別しなければならないのか不思議であった。

ヨハネス空港は余り大きくないがさすがにヨーロッパ人に依って建設されただけあって、実に立派であった。街には近代的な高層ビルが立ち並び郊外には白人の高級住宅が色とりどりの色彩で立ち並んでいる光景は正にアフリカではないような感じを受けた。


（ヨハネスブルグ市郊外の現場で使用されている三笠パイブレーター）

翌二十九日から南アの代理店及び需要家を訪問すると同時に同地に於ける建設機械の市場性に就き実態調査を行なった。

（ケープタウン市内の工事現場で使用されている三笠パイブレーター）

南アは十五世紀の終り頃ポルトガルの航海者の人達によって発見され現在のケープタウンに補給所を設けて西洋文明の種子をまいたといわれている。

当時は洞窟生活のブッシュ族や遊牧種族である小数のホッテントット族以外は全く黒人は存在していなかった。従って今日のバンツー族は当時中央アフリカのグートレークス地方から移住しつつここに住むブッシュ族とホッテントット族を征服して白人との間に血のつながりを持ったといわれる。その後ナポレオン戦争の時ケープタウンはイギリス人に依り接収され、当時のポルトガル人達は全く未知の奥地であった現在のトランスバール地方に追われて行った。その後イギリスの住民が続々と上陸し、数々の戦いが行なわれたが、広大な無人地区「トランスバール」で双方合意した地域を交渉した結果占有するに至り、ついに一九一〇年南ア全体を代表する最初の政府を樹立することに成功、それ以来進歩と繁栄とをもたらした歴代の政府は一九六一年五月三十日南アに於いて共和体制を確立したのであった。

南アフリカ共和国の繁栄の基礎はアフリカの他の地域のどことも比肩できないような経済革命をもたらしたわけだが、工業と農業と

が繁栄したことのほか豊富な鉱物資源を有していることがその大きな原因でもあろう。南アは金、ダイヤモンド、ウラニューム、プラチナ、石炭、鉄鉱石、マンガン、クローム鉄鉱、石綿など世界一大きな鉱床を持っており、世界最大の生産国の一つに数えられている。従って南アはこれら広範囲な資源の採掘、精製及び販売に依って世界で最も富裕な国家の一つになっている。

今や南アはアフリカ大陸に於ける指導的産業国となって自立経済を維持し、主要な発展計画に必要とする資金の九五%以上をも自己資金で賄っているといわれるだけあって、アメリカの対外援助計画に依る援助を全然受けていない。

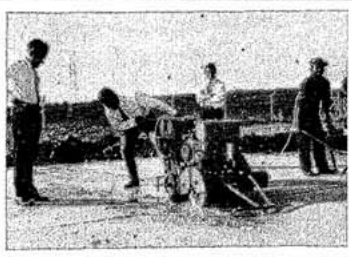
南アの産業革命は現在のヨハネスブルグ市から始まったといわれ、この街は南アで最も豊かなトランスバール州に属し、人口約百三十万を有する大都会となっている。そして今日ではアフリカ大陸に於ける最大の工業地帯でもある。

このヨハネスブルグ市は金鉱の上に建っているといわれるだけあって、その鉱山に従事している黒人鉱夫の数も非常に多く、この街に沿って金鉱脈が地下深くあるのだと聞かされ、今更の如く豊富な鉱物資源の埋蔵量に驚かされた。このような国だけあってマイニング関係の機械は他国に比べコンクリートビルのように見えても柱、床面以外は殆んど赤レンガを使っていてそのレンガの上にコンクリートを塗っているだけだが、その仕上りは正にコンクリートビルと見間違える程であった。

この国では国産化が進められ、機械の使用もかなり進んでいるというもののまだまだ各現場に行って見ると、工期が長いことや、安く人を使うことが出来るという理由から人力に頼っているところも以外に多かった。従って各ユーザーは積極的に機械を導入して工事を進めるといった考えになっていなかった。しかし最近はこれらの情況も少しづつ変って来て機械を買入れる傾向にあるとのことなので将来は大いに期待出来る市場であると思った。ただ輾圧機械類に関しては他国に比べソイルペアリングが非常に良いので殆んど輾圧を必要としないのでその需要は余り多くないとの意見であった。

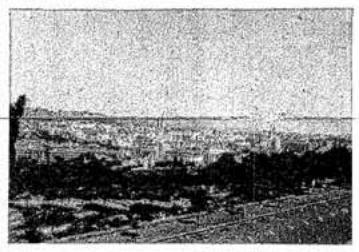
（K社に於ける80型ランマーの実演）

この地区に於いても日本製品の進出は目覚しく、日常品から工業製品に至るまで市場に出廻りつつあるが、日本人に対する認識は他の国で見られる程知られていないようだった。それは日本人に対しては白人扱いをしているものの、まだ白人として認めていないところにその原因があるように思われた。従って日本製品が市場に出廻っているとはいうものの市内及び郊外を廻って見て殆んど英国、独逸、スエーデン製の大小建設機械が最も多く見受けられ、まだまだヨーロッパ製品に比べればものの数ではないように思えた。


（Y社に於けるコンクリートカッターの実演）

プレトリア市は、ヨハネスブルグ市の北方約五〇㎞のところにあり、ここに南アの行う政府の各省の本部がある。この地は「ジャカランダの町」とも呼ばれ、毎年十月頃になると市街は五万本ものふじ色や紫色に咲いたジャカランダの木でおおわれ実に素晴らしいとの話しであった。

プレトリア市は政治色の強い街なので非常に静かなそして美しい建物が立ち並んでいて、市内及び郊外を廻って見ても殆んど完成されていて、工事らしい現場は全く見られなかった。この地には南ア唯一のISCOR製鋼場があり、その周辺には産業地帯もある。


（プリトリヤ市の全景）

ダーバン市はヨハネスから飛行機で約一時間半の所にあり、南アで一番小さな州であるナタール州に属しているが、一番活気のある貿易港で世界の中継ぎ港として最も良く知られている。この港で扱っている荷物は南アの貨物の五五%を占めているといわれる。

この街の人口は約七十万でありインド系の住民が一番多く集っているだけにインド人の町がある。そしてどちらかといえば商業的、観光的な街で一年中を通して海水浴場があり、又海岸には保養地が設けられていたりして非常に賑っているところである。ちょうど日本の夏期に賑わう江ノ島と良く似ている。

空港より街に入るには数年前に完成した高速道路を走って入ることが出来るので非常に便利である。道路は非常に立派でヨハネスよりも早く出来たとのことである。それだけダーバン市の方が進んでいる一面を持っているともいわれる。このような道路を走りながら代理店に行く途中工事の情況を見て廻ったが、ここでは民間住宅や補修工事が盛んに行なわれていた。しかしヨハネスから比べればまだまだその数は少なかった。

これらの工事に於いての見た限りではこの街はヨハネスと異って黒人労働者が機械を使って仕事に従事している姿が見受けられ、さすがに港街だけあって海外からの影響もありそれほどひどい差別をしていないのだなと思った。従って白人は管理部門やその会社の重要な部門を担当しているが、それ以外は黒人にもその能力に応じて仕事を与えているようであった。

ケープ州は南ア最大の州であり、その最大の都市はケープタウン市で「母の都」とも呼ばれ、南アの立法府のある街である。そして以前から南アの黒白混血人の大部分がこのケープタウン市及びその周辺に住んでいるといわれる。ケープタウンは大西洋と印度洋とに面したところにあり、その有名な海岸は南アの各地からの行楽客を引きよせたり、又は毎年英国をはじめ海外から何千もの避寒客が冬のヨーロッパを避けてケープ州の太陽を求めて集ってくるといわれるだけあって景色は実に素晴らしかった。

ケープタウン市には世界的に有名なテーブルマウンテン及びケープポイントがある。そしてテーブルマウンテンの斜面にブドウの樹が植え付けられていて世界でも一流の上質ブドウ酒の生産が行なわれている。

ケープタウン市はさすがに旧い街だけあって道路の補修工事や以前の建物を取り壊し、新たに建て変えている現場も見受けられて、非常に活気のある街だと感じさせられた。この街で消費しているものの殆んどがヨハネスやダーバウンから購入されている関係上商業活動が活発であり、競争も他市に比べて激しいとのことであった。

このような関係からこの街の代理店やユーザーは他に見られるようなのんびりムードに比べて非常に活気があり、知識も豊富であった。

こうして各代理店の支店を訪問後、最終打ち合せのためヨハネスに戻り、再度今後の販売拡充に努力し、一日も早く定着させて頂くよう依頼する。そして滞在中色々お世話になった皆様に挨拶し四月七日ルーレンコマルケスに向う。

（最後の打合せ会、日商岩井支社オフィスにて左よりワトソン社長、ライト部長、佐々木氏）

ルーレンコマルケス市はモザンビークの首都であり、ヨハネス空港から飛行機で約一時間、ダーバンやケープタウンに行くよりも近いところにある。そして自動車で一時間も廻るとこの街の殆んどが見られ、これが首都かと思えるほど小さな街であった。

この国はポルトガルの管轄下にあってポルトガル人が非常に多かったが、南アで見られるような黒人に対する差別はなく、如何なる職場にも自分の能力に合った仕事に従事することが出来る為、色々な職場で働いている黒人労働者を見ることが出来た。

このようなことからも察しられるようにこの国の人々は非常に積極的だし、良いと思った事はすぐに学び、実行に移すといった考え方を持っているので、日本人の物の考え方や、仕事の進め方を学ぼうとする人々が以外と多かった。従って以前はどこの会社も時間が来れば南アの会社と同じようにすぐに帰宅してしまったが、最近日本製品の進出に依り、日本との交流も多くなって来たせいか、日本でなされている方法を採り入れようとする会社が増えている。それ故日本人に対しては非常に好感を持っているし、又日本が築き上げた今日の発展過程を学びとろうとする機運が高まっているようであった。

このようにして積極的に販売活動を推し進めていく代理店と取引関係を結び得たことは非常に嬉しかった。四月十一日ナイロビィーに向う。

ナイロビィーはヨハネス空港から約七時間のところにある。この国は数年前に独立し黒人に依る政府を確立している。従って政治面に対しては黒人政治家が携っているが、経済面に於いてはインド人がその殆んどを占めているといわれる。

この街には世界的に有名な、ナショナルパークがあるのルールンコマルケス市の外にベェラ、ナンブーラーといった主要都市もあるので小さいながらもそれなりの需要はあるらしく既に過去六カ月間に百数十台にのぼるわが社製品を輸入したが、彼等の積極的な販売活動に依り僅かに数台の在庫を残しているだけで、全て売りつくしてしまっていた。

ただこの国では小型建設機械は数年前から使い始めたばかりなので、まだ侵透していない面があり、オペレーターを良く指導しなければならない要素が多分にある。従って各ユーザーを認識せしめることに依り、広範囲にわたり使用されることも時間の問題で、近い将来必ず満足のいく成績を出して見せるとC代理店の意気込みは仲々旺盛であった。

（ルーレンコマルケース市、S社のコスタ、リマ社長が納入した三笠パイブレーターを説明向って右コスタリマ社長、フリータス担当員、同社オペレーター）

わが社の代理店であるC社の案内で市内及び郊外を廻って見て補修工事現場は数カ所見られたが、殆んど工事らしいものを見ることは出来なかった。しかしこれをそれを見ようとする観光客が、海外から集まって来ている。そしてその数は毎年増加しているといわれるだけに政府は観光地としての街造りに力を入れている。

現在この街に於いても日本製品の進出は目覚ましく自動車及び一般消費材のようなものはどこえいっても良く見かけるが、建設機械関係になると全く見当らず全てヨーロッパ製品であった。以前英国の植民地であった関係上、ヨーロッパ製品に対する認識は高く最も使い馴れているため、以前日本の大手メーカーも数回同氏の案内で市内の建設現場などを見て廻る。

従来から同国は、外貨事情が悪いため、思うような輸入が出来ないのだが、それにもかかわらず、同代理店は数年前よりわが社の製品を輸入し積極的に販売していることには非常に嬉しかった。そして今までの各ユーザーがその品質及び性能の優秀性を高く評価していることに感激を新たにして、四月十八日オランダ航空機にて一路帰国の途につく。終りに今回の出張に際は残念であった。しかし数しご配慮下さった関係各商社の方々に心からお礼申し上げます。

（輸出課高野記）

りつよく要請する。

四月十六日、ナイロビィーからの帰途、西パキスタンの首都カラチ市に立ち寄り海岸廻り葉山行京急バス又は三浦交通バス「かぎや旅館前」下車

三笠海の家開設

本年は神奈川県葉山の「かぎや旅館」（別館）洋館一棟を借りて三笠海の家を開設することに致しました。

今年の長期天気予報に依りますと梅雨が長引き夏が短いとのことですから早目に利用された方が得策かと思います。

社員以外でご希望の方は社員と同伴でしたらご利用出来ますから社員を通じて総務部へ申込んで下さい。

場所＝神奈川県三浦郡葉山町堀内九九九　かぎや旅館内

三笠海の家

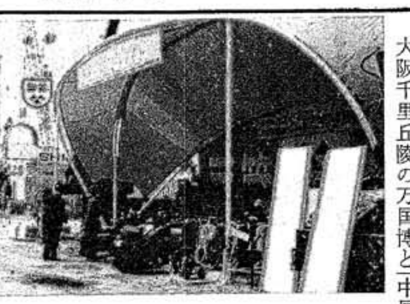
電話〇四六八（七五）〇〇一九番

期間＝昭和四十五年七月一日（水）より八月三十日（日）まで

交通機関＝国電逗子駅より海岸廻り葉山行京急バス又は三浦交通バス「**かぎや旅館前**」下車

広島建設機械展

会期　四月二日〜八日（七日間）
主催　日本建設機械化協会中国四国支部
会場　広島市白島北島（長寿園跡）



日本建設機械化協会、中国四国支部主催の第十二回広島展示会は広島市の南端瀬戸内海に面した長寿園跡に於て華々しく開催された。

大阪千里丘陵の万国博という大物展の開催中だけに世間一般の印象としては、影の薄いものを感じているのではないかと心配されたが、そこは国土建設という特殊な使命を担う展示会だけあって、単なる祭典とは異った中味の濃い何か強く引きつけるものがあったのではないかと思われた。当中国、四国の建設は瀬戸内海沿岸工業地帯の建設、中国、四国連絡道、中国縦貫自動車道、さらには最も決定的な山陽新幹線等々、事業が予定又は予想されており、建設の機械化が今後益々重要視される時期に直面しての今回の展示会は、洵に時宜を得たものと思う。従って、出品各メーカーはもとより、来場のユーザーの方々も真剣な目で見ておられたようであった。

わが社の小間は、例によってユニークなデザインと斬新的な設営企画により黄一色の目の覚めるような色彩をバックに七〇年度展示会入選標語「小さな現場、大きな現場、どこも三笠の建設機械」という大看板が墨痕鮮やかに掲げられ、一際参観者の目を引いた。

この広島展には、地元広島代理店の宝物産殿を始め中道機械殿（広島、岡山、山口、福山各店）岡山代理店の前島商店殿、遠くは鳥取三洋殿、松江原田商事殿の他、販売店の方々からも連日訪問していただき、各地区の市場の近況と、三笠製品に関する批判を多くお聞かせ頂き、とかくメーカーには間接的にしか入らないご意見を直接承ることの出来た事はまことに有意義であった。

又ユーザーでは、広島の錦建設殿、相原組殿。伏光組殿、山口の廉和建設殿、山口建設殿、和泉建設殿等多数のご来場をいただき、日頃三笠製品をご愛用願っている方々のご批判をいろいろと伺うことの出来たのは大変有益であった。その中で、一様にわが社製ＭＴＲ＝80型タンピングランマーの優秀性を認めていただいた事は、好調な現在の売れ行きを裏付けるものとして喜ばしい限りであった。新製品のＭＶＣ＝一〇〇型バイブロコンパクターについては、タンクタイプの二〇〇型に比べて輾圧力が多少劣るところはあっても、走行性と軽量で扱い易いという特長が現時点では特に現場でのご要求に応えているようで自信を深めることが出来た。その他、ハンドカッターの切断用移動車は大変便利であるということだったが、もう少し安価であって欲しいというご意見であった。そして昨年来弊社が力を入れている油圧式ブレーカーに益々注目を集めている事が感じられた。

この展示会はこのようにして期間中に約五万人余の人場者が有り、成功裡に終ったといえる。

特に毎回のことながら、宝物産殿、中道機械殿には一方ならぬご後援を賜り深い感謝の意を表するものであります。

◇　◇　◇

—長畑報—

札幌建設機械展

会期　四月二十二日〜二十七日（六日間）
主催　日本機械化協会北海道支部
会場　札幌市真駒内

日本建設機械化協会北海道支部主催の第十一回建設機械展示会が、北海道開発局を初め、各関係官公庁団体後援のもとに、四月二十二日より二十七日までの六日間、札幌市郊外真駒内（国道二三〇号線定山渓寄）に華々しく開催された。

参加メーカー五十八社出品数は実に七〇〇点を数えた。会場は冬はスキー場、春から秋に掛けては、札幌市内を一望に眺めることの出来る有名な藻岩山の麓、又登別温泉と並んで北海道の代表的な温泉である定山渓に至る途中にあり某建設会社の私有地を借用したとのことである。現場は河原を急遽整地したため、地盤が軟弱で連日お手の物のローラー等で更に地均しが行なわれた幸いにして全日程を通じて良い天気に恵まれ客足も上々で、北海道各地より建設業者が団体バスを連ねたり、札幌駅前から無料バスで来場する観客もあって連日盛況を極めた。協会の調べでは総入場者三万五千人とのことで一日平均六千人弱の観客が来場したわけである。今回は観客層も巾広く建設業者はもとより自衛隊の関係者、国鉄保線区の関係者又は今後北海道の開発に大いに寄与するものと思われる北海道開発青年隊の若人達が子供連れの一般の方々と熱心に質問したり、写真を撮ったりしていた。三笠の特設展示場は本年より設営者の設計によって前方は両端以外支柱の無い間口の広い垢抜けしたテントが設けられ、遠方よりも良く目立ち、先づは観客の印象を強くしたように思われた。そして、その展示場には油圧式コンクリートブレーカー、油圧式パイルハンマー50型100型200型バイブロコンパクター、8型ハンドコンクリートカッター、80型タンピングランマー、10型インパクトローラー等が連日力強く稼動し常に観客の足を止めていた。特に当地に初登場の油圧式コンクリートブレーカーに人気が集まり、業界ニュース等で知った人達が早速来場して自から運転し、騒音の低いこと持運びの簡便さ、破砕時の埃りが上がらないことなどの他、ヘッド丈を小型のバックホー等電設工事用の特装車に取付けられるということに大変興味を持たれたようであった。丁度、当社小間前に展示されてあった中道機械さんのタイガーバックホーに当社のブレーカーヘッドが取付けてあったので、早速具体的な説明を行なって納得して頂くことが出来た。

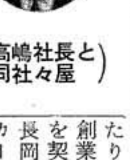
また、新製品の油圧式パイルハンマーに於いても、実演の要求が多く、特に国鉄及び自衛隊関係者の注目をひいたようであった。

今日では工事量の増大にも拘わらず、人手不足のため小型で操作性の良い高能率な機械が要求されている。そのため各社の小型振動ローラーはその類にもれず、本展示会に於いても、当社を含め数社から競って出品されている。又新たに他メーカーも着々とこれが製作に着手しているといわれている。既に当社に於いては高性能の両輪駆動ローラーを発表し近く発売する段階ではあるが、更に一層の改良を加えてデーラーやユーザーのご要望におこたえすべく目下工作中である。また、50型100型バイブロコンパクターに於いても、これ又作業の能率を良くする為、従来のものより一歩進んだ高速高振動方式を取入れたのでその力強い振動音で当社小間は常に多数の顧客を集めていた。当地区は札幌市を中心に日進月歩の進展を続け、第二期北海道総合開発事業の遂行と二年後に開催される冬期札幌オリンピックによる関連事業等それに伴う建設工事も年々増大の一途をたどっている。その発展する当地区にこのたびわが社の札幌出張所が開設されたことは、デーラー、ユーザーとの交流を益々密接にすることで、今後当地区に期待する所まことに大なるものがある。二十三日には京谷社長、吉田常務、星野次長が来場されて札幌市内の代理店を訪問され、翌日、京谷社長と、星野次長は北海道各地の代理店訪問の途につかれた。又二十七日には、京谷専務も来場された。末筆ながら当社前に展示場を設けておられた中道機械さんには、何かと大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

—丸山報—

和興産業㈱創業十周年

日時　六月十三日
場所　伊豆長岡温泉三渓園



（高嶋社長と同社々屋）

躍進に躍進を重ねて、ここに十年、同社の営業活動は、吾々メーカーの驚異の的であり、三島地区に於ける建設機械販売業者として、まことに目覚ましいものがあります。この時にあたり、和興産業㈱さんでは、創業十周年を迎えられたのを契機に、六月十三日伊豆長岡の三渓園に於て、メーカー多数を招待されて、記念式典ならびに祝宴が盛大に催された。当日は、梅雨期ながら案じられた雨もなく、参会者一同本社に集合した後、車を連ねて三渓園へ向い、午後四時三十分より大広間に於て市川部長司会のもとに、記念式典が開催され、高嶋社長より創業より十周年を迎えるに至った同社の経緯ならびに現況をつぶさに述べられ、今日迄は創業時代であったが、今後の十年間は安定成長の年である因って、社員一同の叡智を結集して、大飛躍を計りたいと力強いご挨拶があり、参列者一同に多大の感銘を与えた。ついでメーカー側より次々と祝辞が述べられ、いずれも高嶋社長のお人柄とその経営手腕に讃辞がよせられ、同社の洋々たる前途を祝して式典を終了した。続いて午後六時より祝宴に入り、溝口常務のご挨拶の後、社員ご一同のご紹介が有り、成和工業の清水社長の音頭にて乾杯し、参会者一同和気あいあい裡に杯を重ねて、同社のご発展を祝福し、和やかな宴が夜半迄つづいた。当社から小林館林工場長が出席してお祝を申し上げると共に同社の今後のご発展を心から御祈り申しあげた。

（小林報）

東京建設機械展

会期　五月二十二日〜三十日（十日間）
主催　日本建設機械化協会
会場　東京都晴海埠頭前広場

昭和四十五年度日本建設機械化協会主催の第二十二回東京建設機械展示会が五月二十二日より三十一日まで東京晴海埠頭広場に於いて華々しく挙行された。この展示会には七〇年代の幕あけにふさわしい土地造成、空港、隧道、鉄道などの大型工事に対処するための各種機械の大型化と省力化を目的とする新鋭機が出揃っていた。期間中は東京駅八重洲口から会場へ直通のバスが運転され、終日熱心なお客を運んでいた。

建設機械の使命は常に工事の合理化を求めて開発されるものであり、我が三笠産業も又国土建設の一翼をになって過去三十数年、特殊建設機械メーカーとして限りない製品の開発に研究と試練を重ねて来た訳である。

今回の三笠の小間には三笠が長年つちかって来た輾圧機部門のホープともいうべき四十五年度新製品の両輪振動ローラーを正面に押し出し、それにお馴染のインパクトローラーを始め、六カ月保証書付で無事故記録を続けている今評判の80型タンピングランマーや50型、100型、200型と粒を揃えたスピーディで理想的な輾圧仕上げの出来るバイブロコンパクターの他、携行に便利なハンドコンクリートカッター、油圧式で軽快な操作の出来るコンクリートカッター、それに油圧式パワーユニットを使ったわが社独特のコンクリートブレーカーやパイルハンマーなど三笠の機種は実に豊富である。その上伝統的な技術でゆるぎないご信頼をいただいている各種コンクリートバイブレーター群の登場によって、特異な小間装飾と共に正に場内の圧巻ともいうべき展示振りであった。

しかもこれ等の機械は、絶え間なく実演してご覧に入れているので、何時も三笠の小間は人垣がつくられて、連日大盛況を極めた。

—堀江報—

大阪国際見本市開く

四月十六日より四月二十九日まで二週間にわたって大阪国際見本市《インターエンジニアリング70》が日本万国博開催中の大阪に於いて催された。

万博の千里丘陵とは対象的な、大阪港に近接した港会場で隔年毎に開催されているこの国際見本市は、昭和二十九年以来今年で第九回を迎え本年初参加の我が三笠産業を含めて日本及び世界二十五ヵ国の一、六九一社が参加し、展示小間数は二、七〇七という大きな数となった。展示品も世界の最新、最高の工業技術と製品が展示され、その規模は世界でも有数の国際見本市といわれている。

この九回に亘る大阪国際見本市が世界貿易の推進と日本経済の発展に果して来た役割は大きく、世界に飛躍し、発展する我が三笠産業も又、この見本市を通じて海外に新市場を拡大する機会を持ったわけである。

昭和二十九年以来、総合的な一般国際見本市として開催されてきた大阪国際見本市は、今回は、生財を主体とする専門見本市「国際工業技術見本市」として開催され、高度の工業技術とその生産品を専門的に展示し、工業生産性の向上、流通市場と需要の拡大、技術交流の促進に、大きく寄与することを目的としたものである。

我社からは、各種コンクリートバイブレーターを始め、80型、120型タンピングランマー、50型、100型、200型の各種バイブロコンパクター、3型コンクリートカッター、8型ハンド、コンクリートカッター、32型油圧式コンクリートブレーカー等が出品された。会期中、入場者は万国博開催中とあって、日本全国及び海外から、約80万人の人出があり、百四十万平方メートルの会場に縦にならぶ六つの展示館と屋外展示場は、連日かなりのにぎわいを見せた。

（三笠の展示館）

建設機械の展示場である、屋外展示場にあるわが社の小間にたちよるお客さんは、輸出関係など熱心な人が多く、又、外人バイヤーからの引合の目立ったのも国際見本市ならではであった。

—藤村報—

くらしの総合博覧会

会期　四月十五日〜十九日
会場　福島市蚕糸協組敷地内
主催　福島民報社

（くらしの綜合博風景）

〝新らしい福島〟をテーマにかかげた「くらしの総合博覧会」が快晴に恵ぐまれた福島市信夫山麓に十五日より十九日までの五日間、盛大に開催されました。

博覧会は福島民報社が「新らしい福島を作る」年間シリーズとして県建築士会創立二十周年を記念し同会はじめ、百社を越える一流商社並に関係団体の全面的な協力の下に企画されました。

参加商社は自社の誇る新製品を会場いっぱいに展示しており、〝万国博のミニチェア版〟を思わせる豪華な一大フェアであり、開幕初日からぞくぞくと見物客が訪ずれ快調な出足を示しました。

この博覧会には新しい生活のすべてが展示されており、一般家庭用品や電気製品から建設機械、自動車などすべてにわたって展示されました。

我社も中道機械産業さんの小間をお借りして、ＭＴＲ＝80型タンピングランマー、ＭＶＣ＝50型バイブロコンパクター、ＭＨＣ＝8型ハンドカッター、軽便51型及び電直32型バイブレーターを展示、実演し、大いに参観者の注目を集めました。

ＭＴＲ＝80型ランマーは特に性能の良さと使い易さなどに人気が集まり、参観者のほとんどが自から実演してくださるので、吾々は専ら説明につとめるだけという始末でした。建築関係の人々が多いせいか、非常に関心を持っているので説明にとまどうほど色々な質問が飛出しました。

ＭＶＣ＝50型コンパクターもまた、そのスピード性が高く評価されて舗装仕上げには最適であること、斜面輾圧にも小型で取り扱い易いから便利だろうとのご好評をいただきました。ＭＨＣ＝8型ハンドコンクリートカッターに関しては軽快で、しかもその抜群の切れ味じに皆んな興味を示し、驚嘆しておられました。

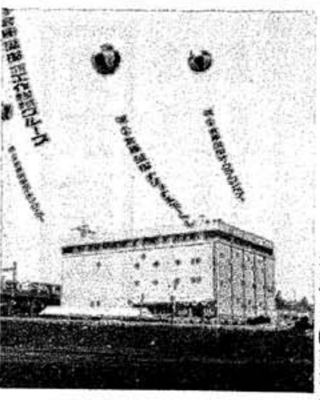
この博覧会も連日一万人以上の入場者を集めて盛況裡に無事終了することができた。これも偏えに関係者のご努力によるところと紙上を借りて厚くお礼申し上げるとともに特に我社に対して、場所を提供して下さった中道機械産業㈱東北本部の皆様や郡山営業所の方々に謝意を表します。

貴社の今後のご発展をお祈り申し上げます。

—永山報—

○お知らせ
七月から放送時間が変りました。

山善機械工具 東日本倉庫センター 新築落成



（山本山善社長と落成した東日本倉庫センター）

山善さんの前途を祝福するかのような雲一つない五月晴れの五月十六日、厚木街道（国道二四六号線）と東急田園都市線の交叉点に位置し、東に京浜国道、西に東名高速道路に接した倉庫センターとしてはまことに好条件の場所に山善機械器具㈱東日本倉庫センターが完成し、その落成式が関係者凡そ千五百人を招いて盛大に行なわれた。会場の空には数十のアドバルーン、会場の内外には数百の花輪が飾られ華やかな紅白の幟幕が張り巡ぐらされた光景はさすが山善さんならではと賞賛を禁じ得なかった。敷地は四、五〇〇平方メートル、建面積は延べ四、五〇〇平方メートル鉄骨鉄筋コンクリート造りの四階建で、一階が工作機械、工業機器と比較的大きな機械の管理、二階が事務室、コンピューター室と工具管理、三階が機器、住宅関連機器および小型工業資材、四階が会議室、図書室となっていて全冷暖房が完備されている超デラックスな倉庫センターである。

落成式は倉庫内に設けられた会場で永井営業部長司会の下に始められ山善山本社長の挨拶に続き来賓を代表して川崎市長江刺氏、金融関係から富士銀行頭取岩佐氏、証券関係から山一証券副社長植谷氏、報道関係からは日刊工業新聞白井社長、メーカー側代表には東芝電気㈱副社長平賀氏、取引関係として東部山善連合会々長山辺氏、全器連会長山本氏の祝辞があり数々の祝電が披露されて盛況を極めた。

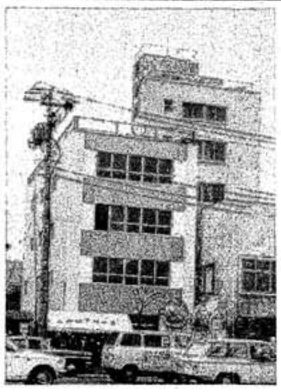
落成式終了後倉庫センター隣にテントで作られた会場に於いて祝賀パーティが山善瀬戸企画係長の司会で始められ、明電社平木社長の音頭で山善さんの落成と前途を祝福して乾杯が行なわれた。続いて司会が万才の青空ウレシ、タノシに変り、奥田宗宏とブルースカイオーケストラのバックミュージックにのって、各地の民謡、民芸が披露され盛大な祝賀会は愈々佳境に入って行った。尚当落成式の式場に於て同社の東京大阪株式一部上場の披露報告が発表された。

激動する一九七〇年の流通業界に於て、その機構の整備と近代化がさけばれている時、山善機械器具㈱さんに於て、率先そのモデルを示され、業界のパイオニアとして一段と飛躍される事は我々メーカーとしてまことに期待してやまない次第であります。—荻本報—

△お断り
今月号は紙面の都合により、「三笠俳句と三笠丸マン画」を休載させて頂きます。

井原精工機新社屋完成

（井原社長と落成した本社新社屋）



井原精工機株式会社（旧株式会社井原商店）東京都港区二丁目二十九番八号では、このほど第一京浜国道に面した交通事情にかない、立地条件の揃った新社屋が完成し、四月二十日午後一時から、取扱メーカー納入先など関係者二百五十名を招き、盛大に新社屋竣工式と記念パーティーを行った。

新社屋の一階は店舗と倉庫、二階は事務所と会議室および食堂、三階は社長、会長住居、四階が社員寮となっている。建て総面積は、四百八十平方メートル付帯設備として、リフト、チェンブロックが完備され持ち運びが合理化されている。

同社は明治二十九年三田小山町に機械金物商井原商店を開業、以来今年で創業満七十四周年を迎える老舗である。

取扱い機種は工具類全般と一部工作機械などであるが、井原社長さんの今後のご方針は、新時代にそった体制で信頼される商社へと極めて意欲的である。いつまでも旧来の製品ばかりを売るというのではなく時代の要請するものを手がけたり、工具をいつまでも主力製品にするものでなく新製品の開拓にも努めたいご意向である。

三笠製品もその一端に取り入れられ、MTR＝80型タンピングランマーやMHC＝8型ハンドコンクリートカッター等数多く販売されている。従来工具類をお取扱の店では建設機械類はあまりお売りにならなかったものでしたが、最近は特に需要層も広がり、管工事業者を初め町の大工さんや、鳶の方々までもランマーやバイブレーターを使うようになったので、大いに将来が期待されつつあるわけです。

末筆ながら井原精工機さんの今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

—大沢報—

佐々木金物店 展示実演 即売会

開催日　四月二十三日
会　場　水沢市立町同社敷地内

㈱佐々木金物店さんでは二年程前から当地に昔より伝わっている防火祭に合わせて毎年展示即売会を催して来られたが、今年もまた四月二十三日の防火祭に合わせて行なわれることになった。当日は、前日の雨もすっかり晴れあがった絶好の展示会日和となった。このたび佐々木金物店さんでは、旧来の扱い商品の中から特に建設機械を積極的に販売する体制を整えられ、三笠製品として、MTR＝80型タンピングランマーを始め、MHC＝8型ハンドカッター、MVC＝50型バイブロコンパクターの他各種バイブレーター等、三笠の主力製品を展示実演して来場者の集中的な人気を呼んだ、主に建築関係の方々が多く来場され、特に保証書付きのタンピングランマーには多大の関心を持って見て頂き、午前中早くも三笠製品にはお買上げ品の札が掛られ好評を博した。

末筆ながらご来場戴いた参観者並に主催者佐々木金物店さん並びに後援の宮城鋼具さんの皆様のご協力に対し厚くお礼申し上げます。

—堀江報—

（佐々木金物店展示即売会場の一部）

宮城鋼具仙台営業所 開設披露式典及び展示会

（落成した仙台営業所と佐藤所長）

昭和四十五年
四月二十六日〜二十七日
一九七〇年代の幕開けにふさわしい年として、世紀の祭典万国博を迎えているこの時期を捉えて、宮城鋼具㈱さんでは、より大きな目的をもって当仙台営業所を開設されました。

仙台市はいうまでもなく、東北地方に於ける政治経済の中心地であるばかりでなく、今日の東北地方の文化的発展に寄与した歴史的意義も又大きく、従ってこの地方の仙台市にかける期待と憧憬は強く計り知れないものがある様に見受けられます。こうした、またとない絶好の時期を逃さず、この重要な地に拠点を置かれた宮城鋼具さんに心から、お祝いの言葉を述べさせていただくものです。

宮城鋼具さんは、永年、工具類の卸売りを主業として精進せられ今日の絶大なる信用と実績を築かれました。又近年はお扱い品目の巾も積極的に広められ、建設機械類の販売にも尽力されて、各取引先各位から、又我々メーカー筋からの期待が年々高まり、事実その実績も動かしがたいものとされてまいりました。ここに宮城社長以下社員皆々様の日頃のご努力に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

宮城社長のお言葉の中に、奉仕する精神という一節がございました。『近年商道のみならず全てのことがらに於て利潤追求が先走り奉仕の精神が薄れつつある。お客様あっての商売であり、そこにお客様を思う〝心〟が欠けたのでは永年のおつき合いはむつかしかろう。この仙台営業所開設の大きな意義も実にその点にあって、東北地方のお取引先各位に対するご奉仕の精神をより徹底させんがためである』とのご主旨でありました。

新社屋は、仙台市内に於ても卸売団地、鉄鋼団地等を近隣に置き、仙台バイパス表通りに面した最も地の利を得た絶好の場所であるだけに、当営業所の今後の発展は、宮城社長以下社員各位の心のこもった努力とあいまって、まずは確固不動のものがあると信ずる次第であります。

二日間にわたる式典と展示会も延べ二百数十名の来賓を得て盛大裡に終了し、ことに東北各地の遠方よりわざわざ来仙されて、宮城鋼具㈱仙台営業所さんの開所を祝っておられる光景は、日頃の宮城さんのご努力の賜とお見受け致すと同時に、仙台営業所の今後に寄せる期待の声と受けとめた次第であります。本当におめでとうございました。

今日の佳き日を人一倍喜んで居られる信念の人佐藤所長さんを始め皆様のご感激も又一入と思われます。ここに貴社の益々のご発展と仙台営業所の今後のご健闘をお祈りしてやみません。

—今野報—

埼玉産業本社々屋落成

（曲山社長と埼玉産業新社屋）

埼玉産業有限会社（社長曲山貞蔵氏）では、このほど宇都宮市長岡町松山六三二番地（富士見丘）にかねてより建設中であった本社々屋が完成し、去る五月二日、取引先メーカーをはじめ関係者多数を招いて盛大な新社屋の竣工式が行なわれ、その記念パーティーが貸切バスをしたてて福島県飯坂温泉若喜旅館で催された。

本社々屋の建設にあたっては、従来市内大曾町の場所が会社の発展にともない手狭になり、また、都市に見られる交通ラッシュ等の関係で、広範囲にわたる活動に支障を来すということから、新たに本社々屋を前記の場所に新築され将来に向って飛躍的な発展を期しておられるわけである。

この本社々屋は三三〇平方メートルの敷地内に二階建の事務所と倉庫があり、二階は曲山社長の住居となっている。特に倉庫を広くとり、いつでもすぐ間にあうだけの製品を置くスペースが用意されている。

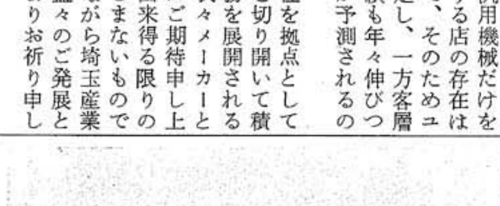
同社の方針は開設以来満八年汎用機械を重点に販売され、今日の発展をもたらしたもので、ともすれば重機関係に飛びつきたがるのが一般に見られる今日の傾向だが、同社は一貫して汎用機械の販売に力をそそがれこれを営業方針にされているところに注目すべきものがある。わが社としてはこのように汎用機械だけを専門に販売する店の存在は非常に貴重で、そのためユーザーも固定し、一方客層も広がり業績も年々伸びつつあることが予測されるのである。

今後は本社を拠点として新しい販路を切り開いて積極果敢な業務を展開されるわけだが、我々メーカーとしても大いにご期待申し上げると共に出来得る限りのご協力を惜しまないものである。末筆ながら埼玉産業さんの今後益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

—大沢報—

×　×　×　×　×　×

創立記念・全三笠野球大会



恒例の三笠の創立記念日を祝うオール三笠野球大会も、回を重ねて本年で第七回を迎えることになった。今年は当番幹事である春日部工場主催のもとに、幸い天候にもめぐまれ、本社、館林、桜、春日部の四チームが参加して、春日部市立大沼グランドに於て元気に行なわれた。

午前十時三十分、三笠行進曲にのって、昨年度優勝の本社チームを先頭に、今年こそは優勝をと意気込む館林チーム、それにダークホースの桜電機チーム、選手の若返りが出来て元気一杯の春日部チームと入場が続いた。

春日部長谷川工場長の力強い開会の辞、そして前年度の覇者本社チーム荻本監督から、京谷社長へ優勝旗の返還、続いて、京谷社長より激励のお言葉があり、選手を代表して、春日部チーム岡部主将の選手宣誓の後、本社チーム対館林チームの第一回戦が、第一球場に於て、京谷社長の始球式により開始された。

一方第二球場では、秘かに優勝をねらう桜電機チームと、今年はやる気を見せる春日部チームとの間で争われた。

第一球場の本社対館林チームは、本社徳永投手、館林金子投手の先発で、早くも初回で本社チームは一点を挙げ、有利に試合を運び、さらに三回にも一点を追加、これに対し館林チームも三回に二安打をはなって二点を奪回し試合を振り出しに戻したが、四回に又も本社に一点を挙げられ、遂に三対二のスコアーをもって館林チームを振り切った。

又第二球場の桜チーム対春日部チームは、桜石川、春日部日高の両投手先発で始められたが、石川投手は初回から乱打され、打った春日部はこれにすっかり気を良くして、守備を固め点を重ねて、戦前の予想とは逆に八対一と圧勝した。

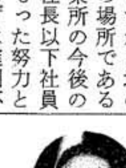
昼食後直ちに三位決定戦が第一球場で、敗者同志の館林、桜の両チームによって行なわれ六対二で桜電機の勝利となった。桜電機の応援団のたたくドラム缶の音が、ひときわ高く聞えた。

決勝戦は、自信満々の本社チームと強豪桜チームを倒して勝ち誇っている春日部チームとの対決となり、本社は徳永投手、春日部は日高投手の先発で開始された。二回の表、早くも本社チームは連投の日高投手を打ち込み、二点を挙げて試合巧者の面目を発揮したが、春日部チームは早々と日高投手をあきらめ、温存していた切札、藤井投手をマウンドに送って守備を固めた。又攻撃では、二回裏に一点を返して追い込み態勢を整え白熱した試合運びとなった。三回から本社チームは藤井投手をどうしても打ちくずせずその間に、春日部チームは、三点を追加して見事逆転に成功、遂に五対二のスコアーをもって、初優勝をかちとった。

試合終了後、京谷社長より全選手のプレー振りを賞讃して春日部工場チームに優勝旗と社長カップが手わたされ、さらに数多くの個人賞が次々と各チームの優秀選手に贈られ、お互いの健闘をたたえ合い三笠産業の万才を高唱して四時頃無事野球大会を終了した。

—小森記—

三笠札幌出張所開設



（三笠札幌出張所と佐潟所長）

わが社の札幌出張所が四月二十日に開所した。

当日は、我が社の前途を祝福するかのようにカラリと晴れ上がって、まるで前日のミゾレが信じられない程の好天に変わっていた。

開所式は午後五時より、中道機械サービス㈱安田部長、中道機械㈱稲業課長、楢崎産業㈱森山部長、同小泉課長、三菱銀行札幌支店水沢支店長代理の方々をお招きし、三笠側から東京本社の平戸経理部長、出張所から佐潟所長、岩崎主任、伊藤所員とそれに展示会準備のため来札中の技術部坂本係長、戸上研究員、松原営業員も参加して少人数ながら盛大な雰囲気の中でとり行なわれた。

先ず全員で三笠産業の守護神である豊川稲荷さんにお祈りした後、楢崎産業森山部長の乾杯の音頭で始まり、約一時間なごやかに話しがはずんだ。

〝我々代理店の意をくんで札幌出張所を開設して頂いてありがとう〟という皆様のお言葉であった。

その後、ロイヤルホテルの中華レストラン竜園に席を移し、夜の九時頃まで話に花が咲いた。

当出張所の位置は札幌市の中心にそびえる鉄塔を眺めながら大通公園を西に進むと九丁目通りと交差する。その交差点を右に曲がって札幌市立病院の正門につき当るその途中の右側にある疋田ビルの二階にある。周囲は南が前述の大通り公園が東西に伸びて冬は雪祭りで賑わい、五月になると美しい花が咲き競って市民の憩いの場になっている。北には植物園の森が緑をなし、ここも又、家族連れの入場者で大賑わいするところである。このあたり、道庁を中心にした官庁街で大きなビルが立ち並んでいるが、騒音はなく静かである。このように環境の良い場所に出張所を開設するに当り親身になってご助力頂いた中道機械さん、中道機械サービスさん、楢崎産業さんに紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

まことに至らぬ者ばかりではございますが、どうかあたたかい皆様のおみちびきによりまして、一人前のお役に立ちますようお引立の程お願い申し上げます。

—札幌出張所佐潟行松—